

◆ 二十九番（今井光子）

がん対策について知事及び健康福祉部長に伺います。

今、二人に一人ががんになり、がんが死因で亡くなる人は、平成二十三年、奈良県で四千六十一人と三割を超え、死因のトップになっています。しかし、奈良県の検診率は全国平均以下です。十月十日、がんと向き合う日に、検診の普及に向けてキックオフ宣言が行われました。

私もことし、人間ドックで全く自覚がない中、初期の乳がんが見つかり、抗がん剤の治療を受けています。進行性のため、ことし検診を受けていなかったら、どうなっているかわかりません。多くの方々に支えていただき、日々生かされていることに感謝の思いでいっぱいです。がんは、早期発見すれば、助かる病気になってきました。どの段階で発見されるかは、病気の予後に大きな違いが出てきます。私は、自分の体験から、周りの方々に検診を受けることを勧めています。

検診は、市町村が実施主体です。以前は検診予算として国、県から出ていたものが、平成十年に一般財源化になったため、予算がわかりにくく、受診率の低下につながっています。市町村では、検診の申し込み開始と同時にすぐにいっぱいになってしまう、こうした声を聞いています。先進国の中で日本だけが検診率が下がり、死亡率がふえ続けています。

県は、市町村をバックアップし、検診率を上げるべきだと考えます。奈良県がん対策推進計画におけるがん検診受診率五〇%目標を達成するために、具体的にどのような取り組みを進めようとしているのか知事に伺います。

がん対策ではおくれて出発した奈良県ですが、その後の取り組みは全国から注目されています。思い切って予算をふやし、がん対策を進めるべきだと考えます。先ごろ開催されたがんについてのタウンミーティングのアンケートでは、奈良県民が大阪や京都に出ていなくて

も安心してがん医療を受けられるように、がん医療の専門的な医療従事者の育成が一番重要だとありました。県のがん診療拠点病院の奈良県立医科大学附属病院には、乳腺外科の専門医がおりません。早急な配置を要望いたします。

また、タウンミーティングは、これまで患者団体が主催で行ってききましたが、住民の声を反映する場として県が年に一度実施していただくように要望いたします。

検診が進まない理由に、受けるのが怖いという意見があります。もちろん、病気そのものの恐怖もありますが、今の仕事や社会生活、医療費などの心配、もし見つかったらどうしようという不安が受診を遠のかせています。一たんがんになると、その治療費は年間で百万円以上もかかる場合も少なくありません。治療費が続かず、治療を断念した方もたくさんおられます。高額な治療を受けた場合に、一カ月の窓口負担が一定の限度額にとどまる高額療養費の制度がありますが、通院で限度額に届かない場合が続きますと、大きな負担になり、制度を改善すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

また、国民健康保険法第四十四条に基づく一部負担金減免制度が県下の市町村で広がってききましたが、入院が中心で、外来でも使えるところは少なく、住民にほとんど知らされていません。現行制度をもっと利用しやすいように周知すべきだと考えますが、いかがでしょうか。健康福祉部長にお伺いします。

#### ◎ 知事（荒井正吾）

がん対策についてのご質問がございました。がんの検診を受けられたそうでございますが、ぜひお気をつけて、ご養生していただきたいと思えます。

奈良県は、健康寿命という観点では近畿のトップでございます。男性も女性もトップでございます。全国的には、男性は十位、女性は十八位ということで、健康寿命は大変優秀な成績であろうかと思えます。しかし、がんの死亡率という点から見ると、全国的に優秀だということまでいかないように思います。それは、がんの検診率が低いということもそのような事情の理由かと考えております。

議員お述べのとおり、本県のがん検診受診率は、全国平均を下回っている現状でございます。胃がんで二七・六％、肺がんで一八・六％、大腸がんで二四・一％、子宮がんで三一・一％、乳がんで三〇・三％ということで、いずれも全国平均を下回っております。また、市町村ごとに調べてみましたが、市町村ごとにも検診率に差がある実情がわかりました。熱心な市町村だと検診率は上がるという事実があることもわかりました。

この検診率、受診率を向上させることは、健康寿命の延長にも大きく寄与すると考えています。健康長寿全国一を目指している本県の重要なポイントでございます。二つのポイントから、二つのやり方で受診の受診率向上に努めていきたいと思っております。

第一点目は、がんやがん検診についての普及啓発でございます。県民だよりやテレビのスポットなどでがん検診の重要性を紹介しております。また、人の集まる大型商業施設や主要な駅での啓発チラシの配布などを継続的に行っております。

また、最近、画期的でございましたのは、本年十月十日、奈良県がんと向き合う日を策定して、大きな運動をしていただきました。受診率向上県民運動として取り組むために、市町村、事業者、患者団体等多数の関係団体が参加いたしまして、がん検診を受けようという奈良県民会議が設立されました。

今後、地域のがん検診受診の地道な呼びかけや、企業とともに啓発イベントを開催する事業者による従業員のがん検診受診の働きかけなど、いろんなチャンネルを通じて、また、県民会議のメンバーと連携して、県内での普及啓発活動を継続的に行っていきたいと思っております。

二点目のポイントは、受診しやすい体制、環境づくりだと考えております。それにつきましては、保険者が行う特定健診と市町村が行うがん検診がございしますが、それぞれ別々に行っておられるということもわかってまいりましたので、一度に受けられるような検診の体制、

また、サラリーマンの方は平日はなかなか受けにくいので、休日に受けていただけることができるような受診の体制などの検討を始めております。また、スーパーでの検診やワンコイン検診など、がん以外の検診の受けやすさも体制づくりを進め、がん検診の検診率の向上につながればというふうに思っております。

がん検診受診率の向上は、大事なことでございますので、がん対策推進議員連盟のお力添えも得ながら、いろんな工夫をしながら向上に努めていきたいと思っております。

がん対策については、健康福祉部長に二問ほどのご質問がございました。

◆ 二十九番（今井光子）

がんの検診につきましては、県としていろいろ施策をしていただくといいことだと思いますので、本当にこのがんによって命をなくす人がないように、そういう奈良県の取り組み、ぜひ進めていっていただきたいと思っております。